

大塚ホールディングス株式会社 2013年度 第1四半期 決算

質疑応答要旨

日：2013年8月8日

Q1: Abilify Maintenaの売上を教えてください。

A2: 1-6月のIMSのデータでは\$5.9MILの売上が計上。IMSデータは補足率約60%。対計画ではこれまでは順調に推移している。

Q2: 通期の売上計画に対する進捗率をご教示下さい。全体的には予定通りだが、セグメント別の営業利益の進捗はいかがか。医薬は予定を上回り、NC関連事業は下回ると見てよいか。

A2: 医薬関連事業はAbilify売上、国内売上共に対計画通り、研究開発費は前倒し使用、営業利益は計画を上回っている。NC関連事業は新製品の広告宣伝費投資により、営業利益は減少した。夏場の売上は順調に推移しているため、今後の営業利益も計画通りに達成できる見込み。

Q3: BrexpiprazoleのP-3試験結果の開示の時期は？

A3: 現時点では、データ開示は年末を目標に進めている。但し、大うつ補助療法・統合失調症の2つの試験共に開示できるかは保証できない。ずれる可能性もある。

Q4: 既に1Qで研究開発費を500億円以上使用しているが、通期では2000億円の計画内に納まるのか。

A4: 昨年から研究開発費については前倒しで投資している。1QはBrexpiprazoleやAbilify Maintenaの適応追加、Brexpiprazoleの新効能追加の試験のための費用が生じ、対前年比で大きく増えており、円安も影響している。円安分を除けば前倒しではあるがほぼ予定通り。年間では円安の為替影響部分については計画を上回る可能性がある。

Q5: 営業利益に対する為替相場の影響は+10億円としているが、期初に発表した為替感応度から考えるともう少し上回っていてもいいのでは。

A5: 為替影響はドルベースの経費が増えたことなどから利益に対する影響は小さくなった。通期の為替感応度については計画通り。

Q6: 補足資料中、所在地別営業利益で北米が▲40億円となり、去年の+14億円からかなり減少しているが、何故か。

A6: 大塚アメリカファーマシューティカルIncは自販体制を整備しており経費が増加し、利益が減少している。また、ファーマバイトのネイチャーメイドは競合品の影響を受け、1-3月は売上・利益が減少している。但し、足元は回復傾向にある。

Q7: トルバプタンのADPKDの適応追加について、今後追加の臨床試験は計画しているのか。何か患者団体からのフィードバックはあったか。

A7: オープン試験でエクステンション試験とフォローアップ試験を実施している。追加試験を行うか否かは9月1日のPDUFAの結果を受けてご報告したい。患者団体からのフィードバックは現時点で確認はできていないが、話し合いは行われていると思う。

Q8: 国内主力品の売上が総じて弱い印象がある。大鵬薬品工業の製品や既存品。それを含めて予定通りなのか。

A8: 国内医薬の売上は予定通りの進捗。プレタールもジェネリックの影響を予想以上に防げている。エビリファイは6月に抵抗性うつしの追加適応を取得したので、今後売上が増加していくと考えている。

Q9: Abilify Maintenaは競合品との差別化、ギャップを埋める対策として臀部以外の投与・プレフィルドシリンジやマルチドーズ等、何か公表できる今後の方針はあるか。

A9: 現在、異なる用量として300mg製剤・400mg製剤の2種類を用意している。処方の約70%が400mg。追加剤型等の情報については今のところ開示していない。将来的なプランは当然考えている。

Q10: ルンドベックのLu AE58054について、P-2試験の用量は90mgで実施していたが、P-3試験のデザイン(10-60mg)で用量が異なるのは何故か。

A10: 用量設定に関してはP-2bの有効性と安全性の結果を考慮して設定。

Q11: 1Qで計上されたルンドベックからのマイルストンの売上計上額は？

A11: 1Qで14億円計上している。年間では200億円弱の計上を予定している。

Q12: アブラキサンの売上が伸びている背景は？

A12: 胃がんと肺がんの追加適応症を2月に取得しているので売上が伸長している。今後もこの傾向が続くと考えている。

Q13: TS-1はジェネリックの影響を受け、売上が減少していると思うが、何か足元状況の要因はありますか？

A13: 処方箋数量の傾向から見ると横ばい。処方期間の短縮、処方傾向が安価なレジメンへの切替により単価が落ちている可能性がある。

Q14: ポカリスエットの数量は伸びているが売上はあまり伸びていないのか？

A14: 金額ベースでも数量と同程度伸びている。価格の変更も行っていない。

Q15: NC関連事業の原価率上昇の要因は？

A15: NC関連事業は対前年比で原価率は若干減少しており、上昇はしていない。

Q16: Abilify Maintenaの保険採用の状況は？

A16: フォーミュラリーに対するアクセスは、インヴェガサステナの昨年12ヶ月実績に対して70%の達成率。

Q17: インヴェガサステナの値下げに対する対抗策は？

A17: 米国での販促規制もあるので慎重に対応。

Q18: 営業利益は全事業セグメントで増益計画だが、NC関連事業と消費者関連事業が出遅れている印象がある。通期の営業利益率の計画は15%ですが、今後NC関連事業と消費者関連事業の利益が伸びると医療関連事業の利益率が減少する見通しで正しいか？

A18: 現時点では通期の営業利益率も上昇する見込み。為替の影響もありNC関連事業は達成できると考えているが、消費者関連事業は戦略を含めて考えないと達成できない可能性がある。全体では営業利益の金額は計画を達成できる見込み。

Q19: BSの在庫が775億円あるが、対前年比で8%伸びている原因は？

A19: 新規連結で23社増加の影響と、米国のファーマバイト社が米国東海岸市場向けにアラバマ州で工場を設立したため在庫が増加。

Q20: 所在地別で北米売上が約25%上昇、営業利益が▲40億円となっているが、在庫に対して未実現利益が出ているため、全体的に利益率が悪化したことが原因か？

A20: 在庫の増加が減益の主因としては認識していない。